

適切なアレルギーの診断と 生活指導ができれば一人前である！

島 惇

洛和会丸太町病院 救急・総合診療科



アレルギーを疑う患者を適切に診断、生活指導をするためには、詳細な問診が欠かせません。しかし、多忙な救急外来や一般外来では、たとえば、「食事歴は直近だ

けでよいのか？」「食事内容はどれほど詳細に聞いたほうがよいのか？」「趣味や職業まで聞いたほうがよいのか？」など、何をどこまで聞いてよいのか悩む方もいるかもしれません。時間の限られた環境で、ポイントを絞って適切に問診をするためには、稀なアレルギーの原因はもちろん、アレルギーと紛らわしい疾患についてもできる限り知っている必要があります。

そこで本特集では、よく知られている食物依存性運動誘発アナフィラキシーや口腔アレルギー症候群から始まり、稀なアレルギーや遅発性アナフィラキシーの原因、アレルギーミミックとなる疾患を中心に解説をしてもらいました。

本誌で扱えなかった稀なアレルギーもまだまだあるかと思いますが、本企画が読者の皆様の明日からの診療の一助となれば幸いです。 

上田剛士

洛和会丸太町病院 救急・総合診療科



本誌をご覧の先生方は「お好み焼きを食べたら蕁麻疹が出た」と言われても、「専門外であるから」と門前払いすることはないでしょう。確かに急性のアレル

ギー疾患に対して、抗ヒスタミン薬を処方するなどの対症療法を行うことは難しいことはありません。

しかし、食事制限などの生活指導については十分な知識が必要です。誘因が除去されれば今後は発作から解放されるメリットがある一方、不要な食事制限は患者の一生を味気ないものにしてしまいます。“適切な生活指導ができれば一人前”と言えるかもしれません。

本特集では、知っておくべきアレルギーについて、臨床目線で解説しています。「お好み焼きミックスの保存方法で重要なことは？」「食後の運動制限は何時間を目安にすべきか？」「シーフードのアレルギーと紛らわしい病態には何があるか？（ヒスタミン中毒、アニサキスアレルギー、FPIES）」などなど、実践的な知識を詰め込んでいます。

本特集が適切なアレルギーの診断と患者指導の一助となることを願っています。 

Editorial